

全国特別支援学校病弱教育校長会

会報

第60号

発行者 全国特別支援学校病弱教育校長会
千葉県立仁戸名特別支援学校長

相川 利江子

編集 神奈川県立横浜南養護学校長

峰尾 智子

令和5年3月27日発行

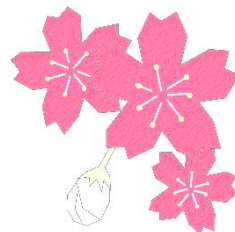
ごあいさつ



全国特別支援学校病弱教育校長会会長
千葉県立仁戸名特別支援学校長

相川 利江子

新型コロナウイルス感染症の話題がすっかり遠のきつつあるように感じますが、みなさんの学校ではいかがでしょうか。世間ではたくさんの制限も少しずつ緩和される方向にあり、行事においてマスクを外すことが良いことのように報道されております。とはいえ、病弱教育にとってははまだ感染防止対策を万全に行うため、病院によっては、病院への出入りが制限され保護者の面会もできなかったり、教員の出入り制限や指導内容の制限もあったり、厳しい状況の中、子ども達の学習を補償し心の支えとなれるよう各学校において様々な工夫と対策を講じておられると思います。



全病長では、総会や2回の研究協議会では、Web開催を余儀なくされましたが、遠方に出張しなくても身近にみなさんの顔を拝見できるお手軽さも感じつつ有意義な会を進めることができました。御協力ありがとうございました。

次年度におきましては、全特長では参集する動きも出ておりますが、病弱教育の特性から引き続きWeb開催も残しつつ、有意義な研究会をもてればと思っております。

今後の課題としましては、対応する病類が、今年度はついに「慢性疾患」に次いで「心身症」が、2番目に多くなり、次いで「重度重複」や「てんかん」の割合も多くなっています。また、コロナ禍の影響からか医療の発展からか入院する児童生徒数は減少し、入院期間の短期化しているように思われます。加えて、GIGAスクール構想による一人1台端末を活用した授業配信が可能になり、転籍をせずに原籍校の授業配信を希望するケースも増えており、切れ目ない学習支援をするためにも、原籍校と連携しながら遠隔教育を推進することが求められるようになってきました。

これからの病弱教育に期待されるところも大いにあると感じます。これからもどうぞ子供たちのために病弱教育の発展にご尽力いただけますようお願い申し上げます。



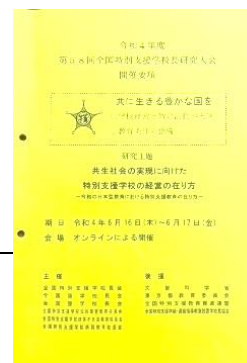
令和4年度全国特別支援学校長研究大会・総会 活動報告

令和4年6月16日(木)17日(金) オンラインによる開催

令和4年度の研究大会・総会は、研究主題を「共生社会の実現に向けた特別支援学校の経営の在り方」～令和の日本型教育における特別支援教育の在り方～として、オンライン方式により2日日程で行われました。

1日目は総会・文部科学省からの行政説明、全特長みんなdeスポーツ推進連盟他からの報告、全高特の総会などがあり、2つの講演会も行われました。

2目は障害種別の総会・研究協議会を行った後に経営課題別研究会が行われました。



令和4年度全国特別支援学校病弱教育校長会総会 令和4年度全国特別支援学校病弱教育校長会第1回研究協議会

令和4年6月17日(金)の令和4年度の全国特別支援学校病弱教育校長会総会・第1回研究協議会はオンラインでの実施となりました。第1回研究会において、研究協議会Ⅰでは文部科学省 初等中等教育局特別支援教育課 特別支援教育調査官の深草 瑞世様より行政説明、独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 主任研究員の土屋 忠之様より情報提供がありました。

研究協議会Ⅱでは、静岡県立天竜特別支援学校 高橋 定裕校長より「病弱特別支援学校における道徳教育の充実」、長崎県立大村特別支援学校 小川 由香校長より「病弱特別支援学校における児童生徒の実態に基づいた自立活動の指導の在り方」について実践報告をしていただき、オンラインではありましたが情報交換をすることもでき、有意義な時間を持つことができました。



令和4年度全国特別支援学校病弱教育校長会第2回研究大会

令和4年度の第2回研究大会は、第63回全国病弱虚弱教育研究連盟研究協議会並びに総会(山口大会)がweb開催となったことに伴い、令和4年8月4日(木)午後、埼玉県立けやき特別支援学校を拠点としてweb開催で行いました。

文部科学省特別支援教育課特別支援教育調査官の深草 瑞世様を指導助言者としてお迎えし、ICT機器活用(2分科会)、高校生支援(1分科会)、復学支援(1分科会)、自立活動(センター的機能)(1分科会)、センター的機能(自立活動)(1分科会)の6分科会に分かれ、オンラインでつながって協議を行いました。また、国立特別支援教育総合研究所主任研究員 土屋 忠之様からも情報提供をしていただきました。

令和2年度の第2回研究大会からweb開催となりました。

コロナ禍が続く中、今年度も集合開催で実施することはできませんでしたが、開催側も、参加者側もweb開催に慣れてきています。

各都道府県、病弱を担当する特別支援学校数が少なく、また、学校によって学校のあり方が全く違うため、この研究大会は、同じ障害種の特別支援学校を運営する校長の研修の場として、また、情報交換の場として大切な場所になっています。画面の中の出会いではありましたが、有意義な時間を持つことができました。

『病気の子どもの理解のために』の改定について

現在、全病長事務局6校で改定委員会を組織し、平成19年から全病長と特総研で作成した「病気の子どもの理解のために」についての改定作業を進めています。

令和4年度末の時点では、はじめの6冊は医療側のチェックを反映させて最終確認に移る段階になっており、次の6冊は医療側のチェックを受ける段階になっています。令和5年夏に全病長のHP等で公開していく予定です。

今後、改定委員より、情報提供や協力の依頼があると思いますが、ご協力をお願いします。



http://www.zentoku.jp/dantai/jyaku/index_book.html

令和5年度の予定

第1回 理事評議員会

令和5年5月15日(月)10:00~12:00

総会

令和5年6月16日(金)9:00~11:50

第1回研究協議会

令和5年6月16日(金)13:00~15:00

第2回研究協議会

令和5年8月4日(金)13:00~17:00

Web開催(埼玉県立けやき特別支援学校)

第2回理事評議員会

令和6年1月24日(水)10:00~12:00

Web開催(埼玉県立けやき特別支援学校)

第5回ロボットプログラミング選手権大会 2023

令和6年2月1日(木)10:00~14:30

Web開催(千葉県立仁戸名特別支援学校)

ロボットプログラミング選手権2022（病弱部門）について

千葉県立仁戸名特別支援学校

2019年度より始まったロボットプログラミング選手権（病弱部門）は、教育行政機関や団体、大学、企業等からの支援を受け開催され、今年度は、昨年7月のエントリーから始まり、5つの地区大会を経て、令和5年2月1日に全国大会が行われました。

事務局（主幹校）で実施される試合を配信する型で実施しました。各会場校では、大会の様子や試合に一喜一憂しながら観戦したと報告を受けました。

北海道・東北地区大会 令和4年12月6日 事務局：青森県立青森若葉養護学校

新たに福島県立須賀川支援学校郡山校が加わり、4校7チームで試合を行いました。年々各チームの力の差が小さくなり好ゲームが多く、本校会場内は大変盛り上がりました。優勝は青森県立青森若葉養護学校の「3W」、準優勝は北海道手稲養護学校三角山分校の「三種の神器」でした。

昨年度からルール変更がありましたが、大きな混乱もなく計画通りに大会運営ができました。次年度は、さらに参加校が増えて、今年度以上に盛り上がる大会になることを期待したいと思います。



関東甲信越大会 令和4年10月6日 事務局：千葉県立仁戸名特別支援学校

関東甲信越大会にエントリーしたのは、11校20チームでした。手に汗握る試合が繰り広げられ、児童生徒は、食い入るよう熱心に対戦の画面を見つめていました。全国大会への出場を決めたのは、優勝：千葉県立四街道特別支援学校「よつとく高等部」、準優勝：東京都立光明学園「村人(50)ワンタン麺を食べる。」、3位：神奈川県立秦野養護学校「KN N」、4位：山梨県立富士見支援学校「チームケンちゃん」、5位：千葉県立仁戸名特別支援学校「コロン」、6位：千葉県立四街道特別支援学校「よつとく中等部」、開催校枠：千葉県立仁戸名特別支援学校「YKK」でした。



中国四国地区大会 令和4年11月8日 事務局：香川県立善通寺養護学校

中国四国地区大会では、4校5チームがエントリーしました。対戦の様子が分かるように、土俵と、トーナメント表、対戦結果表も同時に配信しました。各校の紹介では、ライブ配信する学校もあれば、事前に録画したものを流す学校もあり、ハイブリッド方式の開会式になりました。今年は、参加チームが少なかったですが、来年度は、参加校が増える予定なので、盛り上がりそうです。

ご支援、ご協力ありがとうございました。



近畿・東海・北陸地区大会 令和4年 11 月 25 日 事務局:富山県立ふるさと支援学校

9校18チームが参加し、5枠の全国大会出場権をかけて熱戦が繰り広げられました。

今大会で4回目を迎え、各校のプログラミングが進化しています。センサーを使つての攻撃的戦略が目玉を引く、白熱した試合が数多くありました。特に、初出場である静岡県立天竜特別支援学校の優勝と3位を獲得する目覚ましい活躍や、和歌山県立みはま特別支援学校の準優勝と5位のダブル入賞する大健闘がみられました。

対戦はオンラインで相互通信され、各参加校は学校が一つになって応援し、感動と喜びを味わっている様子が見え、うかがえました。



九州地区大会 令和4年 12 月 20 日 事務局:福岡県立古賀特別支援学校

8校 15 チームが、全国大会出場をかけて熱戦を繰り広げました。どのチームも工夫を凝らしたプログラムで大会に臨んでいました。3カウントで一斉にプロログが動き出す様子は大変見応えがありました。また、プログラムだけでなく、チーム名やプログラム名にも児童生徒の皆さんの思いが込められているなど感じました。

どのチームが勝ち残ってもおかしくない白熱した戦いの結果、4校4チームが全国大会に駒を進めました。

参加校の皆様、ご協力頂きありがとうございました。



全国大会 令和 5 年 2 月 1 日 事務局:千葉県立仁戸名特別支援学校

各地区大会で出場権を勝ち取った 20 チームの白熱した全 20 試合が行われました。例年になくハイレベルな戦いになり大いに盛り上がりました。優勝 : 千葉県立仁戸名特別支援学校「YKK」準優勝: 香川県立善通寺養護学校「善4」3位 : 東京都立光明学園「村人(50)ワンタン麺を食べる。」

技術賞: 北海道手稲養護学校三角山分校「三種の神器」【初号機】技術賞: 静岡県立天竜特別支援学校「クッキー☆」【KNN 姉貴】技術賞: 香川県立善通寺養護学校「善4」【レッドワイバーン コモド】



今年度より全国大会の主幹校は千葉県立仁戸名特別支援学校となりました。多くの皆様の御協力のおかげで、スムーズで好試合の多い大会となりました。ありがとうございました。来年度も本校が全国大会の主幹校を努めます。大会が一層盛り上がるように、これまでになく視点で企画と運営をしたいと考えていますのでよろしくお願いします。